

# 情報化施工の先駆け

## ブルドーザ、ショベルを相次ぎ導入

と機械を保有しているのが同社の強み。所有台数は県内でも最多規模を誇り、集中豪雨などの緊急時には30分以内で現場へ到着できる

国内最大の建設機械メーカーであるコマツが開発した最新鋭の3次元マシンコントロールシステムを搭載したブルドーザ「3D-MC」とパワーショベル「3D-MG 3Dxi」がこのほど、石川県内の建設会社では初めて南建設（志賀町）へ納入された。

情報化施工に対応したブルドーザ 速高精度施工が可能であり、モーターは、敷き均し作業時に排土板の高さ、1グレーダに匹敵する滑らかな仕上がりを実現した。一方の



パワーショベル「3D-MG 3Dxi」

パワショベルは、3次元設計データを利用し、バケットの刃先位置がリアルタイムに表示される。モニターに表示される設計とバケット位置（高さや勾配）の差をオペレータが常に確認しながら施工できる。南建設は、国が推進する情報化施工の受注実績がすでに計6件と県内でもトップクラスだ。20

### 南建設(志賀町)

14年度の能越自動車道工事（金沢河川国道事務所発注）では、工期が厳しく、路体盛土量も多かったが、ショベルのマシンガイダンスを活用し、丁張をわずかに施工品質の向上と工期短縮を成し遂げた。最近石川県もICT施工に力を入れ始めた。現在、県中能登土木総合事務所発注「一般国道415号国道改築5類工事（改良2工区）」に取り組んでいる。同社では今後も情報化建機を充実させ、現場の大小を問わず使用していく方針だ。CADソフトや施工管理システムを一新し、TSによる出来形管理や3Dデータの作成など、社内技術力を向上させる。一方、災害時の迅速な出動に備え、下請けを使わずに自社でオペレータ

と機械を保有しているのが同社の強み。所有台数は県内でも最多規模を誇り、集中豪雨などの緊急時には30分以内で現場へ到着できる



ブルドーザ「3D-MC」

コマツ石川がサポート